

# 連携

栗原市立栗原中央病院

広報誌

編集：広報委員会、地域医療連携室

平成24年11月発行

第44号

## 病院の理念

わたしたちは、患者さまを第一に考え、いのちを大切にす最善の医療を行い、地域に貢献します

## 基本方針

わたしたちは、患者さまのことを考え、いのちを大切にします

1. 市民から信頼される、安全な医療を行います
2. 良質な医療を行うために、つねに新しい知識と技術を身につけるように努めます
3. 地域のニーズに合った医療を提供することで、地域に貢献できる病院をめざします
4. 地域の医療の中心として、ほかの医療機関との連携に努めます

## 糖尿病の患者会(仮名:薬師の会)を立ち上げます

栗原中央病院 内科部長 鈴木慎二

秋の色がしだいに深さを増してきました。栗原中央病院の糖尿病チームは糖尿病の患者会を企画しています。糖尿病の患者の皆さんとご家族へ、より充実した生活を送ってほしい、病気に負けないで頑張ってもらいたいという願いから、当院の医師や看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、患者さんでつくるサークルです。簡単にですが、患者会の4つの目的について説明します。

### ① 仲間と出逢いたい!

患者会は、いろいろなイベント、ウォーキングや食事会などを開催します。参加の機会を通じて、ベテラン患者さんの経験談やアドバイスを聞くことができます。

### ② 糖尿病について、もっと知りたい!

そんな患者さんの声に応えて、三大合併症や動脈硬化、インスリンの使い方やフットケア講習会など糖尿病の勉強会を開催します。

### ③ いろいろな情報が欲しい!

会員は日本糖尿病協会の協会誌「糖尿病ライフさかえ」を読むことができます。「さかえ」

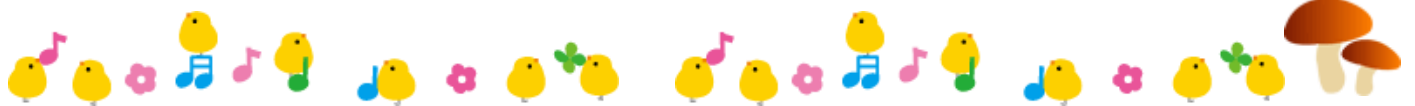
は、食事療法を活用したおいしいクッキングレシピや、簡単にできるエクササイズ、患者さんの体験談、専門家のアドバイスを掲載した糖尿病ライフを豊かにする専門誌です。

### ④ 励ましあいたい!

患者さんの療養生活が、とかく閉じ籠りがちになるため、世界を広げてもらいます。ひとりで悩むのはもうやめて、糖尿病を養生するためお互いに手をとりあいましょう!

医療機関や専門家から提示される日常生活習慣管理のみで、糖尿病と付き合うことには限界があります。実際に糖尿病と日々付き合っている患者さん同士の療養情報の交換は、疾病管理に重要な意味を持ちます。他の患者さんの工夫している療養法を聞いたり、患者さん同士にしか分かり得ない悩みなどを相互に話しあったりすることで、医療者が話をするよりも、ときには患者さんに何倍も勇気を与えることがあります。

患者会を発足させることにより、地域の糖尿病診療を更に充実させたいと考えています。



〒987-2205 宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1

栗原市立栗原中央病院(代表) TEL: 0228-21-5330 FAX: 0228-21-5350

<http://www.kam.or.jp/central/index.html>

地域医療連携室(直通) TEL: 0228-21-5335 FAX: 0228-21-5336

# 新任医師紹介

よろしくお願いたします！



ちだ こういち  
千田 光一 内科部長 出身地 宮城県

私は、卒後 30 年間以上神経内科医として勤務してきました。  
神経内科医として診療、研究、教育、地域医療、医師会活動などを行って  
きました。栗原中央病院でも神経内科を核として、この病院で必要なこと  
に一生懸命取り組んで行きたいと思えます。

## 登録医リーフレットを設置しました

登録医になっていただいている 87 件の医療機関より登録医リーフレット設置にご協力を  
いただき、当院正面玄関前に設置しました。

このリーフレットは、患者様、家族または来院され  
る方々が医療機関を選択する際に利用していただくこ  
とを目的にしています。

また、当院から逆紹介時や、かかりつけ医を探して  
いる患者様の相談時に活用させていただければと考  
えております。

診療時間の変更などがございましたら、地域医療連  
携室までご連絡いただければ幸いです。



### ◎手術実施状況

(単位：人)

区分	全身麻酔				腰椎麻酔				局所麻酔						合計
	外	皮	整	計	外	皮	整	計	外	眼	皮	内	整	計	
4月	26	1	16	43	1	0	6	7	0	20	2	0	5	27	77
5月	35	0	14	49	3	1	6	10	2	24	0	0	6	32	91
6月	18	1	12	31	1	0	8	9	0	20	2	0	3	25	65
7月	20	1	12	33	2	0	6	8	1	24	3	1	10	39	80
8月	22	0	17	39	1	0	3	4	1	18	4	1	0	24	67
9月	15	1	11	27	1	0	9	10	2	18	2	0	4	26	63

### ◎内視鏡検査等状況

(単位：人)

区分	上部消化管				下部消化管		ERCP 関連	合計
	診断的 内視鏡	止血術	粘膜切除 粘膜下層 剥離術	胃瘻造設術 食道拡張術 異物除去他	診断的 内視鏡	治療内視鏡 ポリペクト ミー他		
4月	136	11	6	6	63	14	14	250
5月	198	16	2	5	99	12	19	351
6月	188	7	5	9	134	19	16	378
7月	179	5	3	4	132	21	26	370
8月	160	4	4	1	111	12	30	322
9月	160	5	4	3	91	20	27	310

## 学会・研修会・論文発表

- ☆肝胆膵 2012.6 Vol.64 No.6p933-948 アークメディア  
 特集『膵炎の診断基準・診療ガイドライン改訂と Validation』  
 座談会・・・小泉 勝(司会)、片岡慶正、正宗 淳、杉山政則
- ☆肝胆膵 2012.8 Vol.65 No.2p359-364 アークメディア  
 特集『肝胆膵の線維化：研究と診療の最近の進歩』  
 早期慢性膵炎：総論・・・小泉 勝、佐藤昇彦
- ☆総合リハビリテーション 2012.3 Vol.40No.3p245-248 医学書院  
 特集『東日本大震災とリハビリテーション』  
 行政によるリハビリテーション支援体制—栗原市の状況・・・小泉 勝
- ☆宮城県医師会報 800号記念特集号 2012.9 通巻800号  
 特集宮城県医師会・郡市医師会の歩み  
 P.806-808 『2.栗原市移行に伴う公的医療機関の集約や変遷』・・・小泉 勝  
 P.812-814 『6.栗原医療圏の災害時医療について～6.14 岩手・宮城内陸地震と 3.11 東日本大震災の  
 総括～』・・・内田 孝
- ☆第40回日本磁気共鳴医学会大会 教育講演 2012.9.7 ～京都府京都市～  
 『MRI 検査の安全管理 一体内プラント、保温下着、着装医療器具、貼布薬剤などへの対応を中心として  
 一』・・・引地健生
- ☆第61回日本医学検査学会 平成24年6月9日～10日 ～三重県津市～  
 『東日本大震災における二次避難所での深部静脈血栓症検診活動報告』・・・阿部ひろみ、菅原千恵、佐藤徳吉
- ☆公益社団法人日本麻酔科学会北海道・東北支部第2回学術集会 2012.9.1 ～北海道札幌市～  
 『良好な術後鎮痛を得るためにナロキソン併用中等量フェンタニル麻酔を行った腹部大動脈瘤切除人工血管  
 置換術の2症例』・・・斎藤夕布子、杉山公利
- ☆第163回東北外科集談会 2012.6.9 ～仙台市～  
 『直腸肛門部悪性黒色腫の1例』・・・○高橋宏和、名久井雅樹、中鉢誠司、大橋裕介、中川 有、内田 孝
- ☆第14回仙北消化器疾患研究会 胆道系疾患最先端 2012.6.13 ～大崎市～  
 『急性胆管炎、総胆管結石に対する当院の取り組み』・・・佐藤昇彦
- ☆日本医療マネジメント学会宮城地方会第6回学術集会 2012.7.7 ～柴田郡大河原町～  
 『転倒・転落の減少に向けての取り組み』・・・○石川佳代



## 当院で開催された研修会等



### 腹部超音波研修会

開催日：平成24年7月9日(月) 18:00～  
 講師：秋田赤十字病院 第3内科部長 石田秀明先生  
 演題：『胆嚢病変の診かた』  
 司会：診療放射線技師長 引地健生  
 参加者：病院職員 15名(医師6名、放射線技師5名、検査技師4名)、  
 近隣医療機関職員 16名(うち医師4名)

### 県北心血管エコー研究会

開催日：平成24年7月13日(金) 19:00～  
 概要：第6回県北心血管エコー研究会を開催しました。この会は東北大学  
 西條芳文先生、大崎市民病院平本哲也先生をアドバイザーとして、循環器領  
 域の各種超音波検査の普及や技術の向上を目標に開催しています。  
 「東日本大震災から得られたこと＝教訓と福祉避難所＝」栗原市立栗原中央  
 病院 赤井健次郎  
 「岩手県三陸沿岸のDVT 検診について」盛岡市立病院神経内科 佐々木一  
 裕先生  
 「東日本大震災におけるDVT 検診活動と段ボール製ベッド設置活動の総括  
 報告」新潟大学呼吸器循環外科 榛沢和彦先生  
 参加者：医師 14名、技師 24名  
 臨床検査科 阿部ひろみ





## 医療安全研修会 ―ヒヤリ・ハット報告会―

開催日：平成 24 年 9 月 11 日（火） 17：30～

概要：7 部署の発表と、残り 7 部署は抄録でまとめました。どの部署も、起きたヒヤリハットから細やかに分析し、対策を立て評価していました。300 あるヒヤリハットレポートからそのうち 29 例は軽微な事故、そのうち 1 例は重大事故が起きるとされているハインリッヒの法則から言わせれば、小さな気付きを多く持ち、それを皆で共有することで 1 例起きるであろう重大な事故を防ぐことが出来ます。ヒヤリハットレポート作成を苦痛に思わず、小さな発見レポートが多く提出されることを期待したいと思います。

参加者：107 名

医療安全管理室 佐藤美和

## 院内感染対策研修会

開催日：平成 24 年 9 月 18 日（火） 18：30～

講師：愛知医科大学 感染制御学 教授 三嶋廣繁 先生

演題：『これからの肺炎診療を考える』

座長：内科部長 中山昇一

参加者：院内 73 名、院外 36 名、計 109 名

## 糖尿病療養チーム勉強会

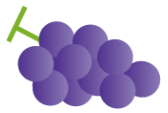
開催日：平成 24 年 9 月 26 日（水） 18：30～

演題：『持続皮下インスリン注入療法・持続血糖測定システムの機器使用レクチャー』

日本メドトロニック株式会社ダイアビーティス事業部

座長：内科部長 鈴木慎二

参加者：糖尿病療養チーム合わせ 25 名



## 臨床病理検討会

開催日：平成 24 年 9 月 28 日（金） 17：45～

病理指導：大崎市民病院 診療技術部門担当部長兼病理診断科長 兼臨床検査技術部長 坂元和宏 先生

司会：外科部長 大橋裕介

症例：『臨床上 IPMC が疑われた脾悪性腫瘍の一例』

臨床提示：臨床研修医 2 年 三浦平寛

主治医 内科医長 小西秀知

参加者：21 名



## 地域医療連携室学術講演会のご案内

テーマ：「運動障害のある患者の診療のポイント」

講師：東北大学大学院医学系研究科 肢体不自由学分野 教授 出江紳一 先生

日時：平成 24 年 11 月 13 日（火） 18：30～

場所：栗原中央病院 2 階講義室



## 編集後記

11 月に入り、今年も残すところ 2 カ月となりました。今年は、変わりゆく毎日の中で、大切なものが見えた 1 年でした。現在、栗原中央病院では、病院機能評価の更新に向けて取り組んでいます。先日、改めて自分の職業団体の倫理綱領を読み、「誰のために仕事をするか」「誠実に向き合うこと」を考えさせられました。S